



カフェの前に誘引した、つるバラ‘スヴニール・デュ・ドクトゥール・ジャマン’が、和の建物の雰囲気とピッタリ



ツツジが中心だった400m²の日本庭園を、先代から引き継いで少しずつバラが似合うようにと作り変えています。既存の柿ノ木の周囲には‘芽衣’や‘プリンセス・カナヤ’など日本由来のバラが花盛り。



上/ 江戸中期に建てられた長屋門の一室を改装したカフェ店内。16畳程のこじんまりした空間は落ち着くと好評です。
右/「隠れ家カフェ ローズ亭」入り口。樹齢150年以上のサルスベリがお客さまを迎えます。



10

東京都 榎本みどりさん

最盛期には180人来訪

バラを眺めるカフェを開店



左/ 榎本邸の入り口には、築年数が100年以上になる長屋門が。左右はかつて門番が寝泊りした部屋でしたが、右側をカフェとして利用しています。
 右/ 門の右側には白花のモッコウバラを、左側にはキモッコウバラを誘引。2種とも、旺盛な一季咲きなので、夏に剪定することを失敗から学びました。

かつて友人の勧めで始めたバラ栽培は、夢中で続けているうちに15年が経ちました。当時、バラは好きだけど難しいと思っていた榎本さんに、「私が教えてあげるから一緒に育ててみようよ！」と友人が一鉢のバラをプレゼントしてくれました。「今、肥料のやりどきよ」「剪定は年内が目標ね」などと、手入れのタイミングをいつも教えてくれていたのですが、悲しいことに病気で他界。彼女が大事にしていた10鉢のバラを形見として譲り受けたのを機に、本気でバラと向き合うことになりました。

失敗を繰り返さない！バラ教室を受講

これまでいくつもの失敗で悔しい思いをしてきました。モッコウバラの大事なシュートを冬に剪定して、春に花が咲かなかったこともありました。またある時は、考えなしに植え付けて庭が大混雑！困り果てていると、「冬になら移植できる」とアドバイスを受けて恐る恐る別の場所に植えてみたところ、春に一本も枯れることなく芽吹いたのです。その成功体験が背中を押して、形見のバラを枯らしてはいけないと一念発起したのです。

バラ栽培の教室を2つ掛け持ちで受講することで、徐々に自信がついてきました。すると、口コミで1人2人とバラの庭を実に来る人が増えていったのです。

最盛期は18人も人が訪れるようになり、お茶やお菓子を出しているうちに「バラがつないでくれた花友だちをもてなしたい」と思い立ちました。昨年は敷地内にカフェをオープン。ゆっくりお茶を飲みながら情報交換ができると評判のバラ好きが集う新スポットになりました。



上/ 明るくおしゃべり好きな榎本さん。彼女の人手でカフェはいつも賑やか。
 左(時計回りに)/ 枝垂れ梅に絡めた‘キング’、一重花がチャーミングな‘バレリーナ’、窓辺に飾った‘ラデュレ’。どれも和の庭の雰囲気馴染んでいます。